

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	27	学校名	県立那珂湊高等学校						課程	全日制	学校長名			磯野 修			
教頭名	新堀 隆久									事務（室）長名			小西 孝典				
教職員数	教諭	36	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手、ALT		4	事務職員	3	技術職員等	4	計	54
生徒数	小学科		1年		小学科		2年		3年		合計				合計 クラス数		
			男	女			男	女	男	女	計						
	普通科		8	19	普通科		11	11	8	15	27	45	72	3			
	商業に関する学科		41	62	会計ビジネス科		15	19	10	27	132	174	306	9			
					起業ビジネス科		24	12	17	10							
					情報ビジネス科		6	26	19	18							

2 目指す学校像

豊かな教養と人間性を育み、地域の未来を担う人材を育成する学校

- ①何事にもチャレンジする精神の涵養
- ②創造力・企画力・説明力の育成
- ③世界を視野に地域貢献
- ④21世紀型スキル*の育成

*【21世紀型スキル：これからの変化の激しい社会に
主体性を持って参画し、自ら課題を見つけ、創造的
にその課題を解決できる能力等のこと】

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○豊かな教養と人間を身につけ、地域の未来を担う人材 ①何事にもチャレンジする人材 ②21 世紀スキルを身につけ、世界を視野に地域貢献できる人材 ③創造力・企画力・説明力を身につけた人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	①主体的な進路学習や勤労の貴さ、創造の喜びを体得させ、地域産業に寄与できる社会人を育成する。 ②部活動や学校行事等の活性化を図り、総合的な人間力を向上させる。 ③充実した学習環境を提供するとともに探究的な学びを推進し、生徒が自主的に学習に取り組む態度を育成する。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○やりたいことを見つけて挑戦しようとする生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎教科である英・数・国についての学力の向上が見られなかった。また、家庭学習の習慣がまだ身に付いていない。	基礎学力を付けるため、毎日学習する習慣を身に付けさせる。 繰り返し学習をさせる。
進路指導	コミュニケーション能力が十分でないために、採用試験等の面接で苦勞する生徒がいる。また基礎学力の不足により第一志望の進学先に合格を果たせない生徒がいる。	挨拶や礼法を習慣化させる指導。 課題や提出物をきちんと期限を守り提出させる指導。 基礎学力の向上を目指す指導。

別紙様式 1 （高）

特別活動	1 年生の部活動定着率が低くなっているため、今後も引き続き全校をあげて部活動に対する意識・意欲を高めていく必要がある。また、学校行事の充実と生徒が自主的に活動する体制の確立が必要である。	各部の P R や活動を発信する場をつくり部活動加入率及び定着率を向上させ、部活動の充実を図る。また生徒会を中心に生徒が自主的に企画・運営の中心となれる体制をつくる。
生徒指導	生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っているが、一部規範意識や理解力・公共心の乏しい生徒もいる。また、進路等目的意識が明確でない生徒も増えている。	生徒の自主・自律心の涵養及び基本的生活習慣の確立に向け、学校全体でいかにして取り組むか。
働き方改革	各校務分掌や各学年等における校務が特定の職員に偏りがちである。	組織内での業務の精選と、役割分担の明確が必要である。

5 中期的目標

- 1 校内研修（職務研修や公開授業等）を積極的に行い、教員の指導力の向上を図る。
- 2 主体的な進路学習や勤労の尊さ、創造の喜びを体得させ、地域産業に寄与できる社会人を育成する。
- 3 部活動や学校行事等の活性化を図り、総合的な人間力を向上させる。
- 4 充実した学習環境を提供し、生徒が自主的に学習に取り組む態度を育成する。
- 5 働き方改革を推進し、適切な勤務体制を整え、生徒と向き合う時間の増大を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 実践的な学びの深化	ア 基盤としての基礎学力を定着させる。 ・教員の指導力の向上：教科会や公開授業、校内研修等の積極的実施 ・授業時間の確保：行事の精選と実施方法の見直し、チャイム授業開始 ・多様な学習形態の研究と実践：少人数指導、T T、I C T活用等 ・家庭学習時間の確保：適切な学習課題等 イ 大学、企業、地域等と連携した取り組みを強化する。 ウ 体験活動や課題研究等の全員実施（参加）を推進する。
2 特別活動の活性化	ア 部活動・生徒会活動等への積極的参加を促し、生徒主体の活動を推進する。 イ 適切な人間関係の構築とコミュニケーション能力の向上を図る。 ウ 家庭、地域と連携・協力し、開かれた学校づくりをする。 エ キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施していく。
3 体系的な進路指導	ア 3年間を見通した計画的な進路指導により、進路意識を高揚させる。 イ 社会体験等を通して、職業観・勤労観を育成する。 ウ 個別指導等を充実させ、多様な進路希望に対応する。

別紙様式 1 (高)

4 生徒指導の充実	ア 生徒一人一人の自己有用感を高揚させる授業づくりや集団づくりをする。 イ 登校指導や校内見回り等により、問題行動の未然防止に努める。 ウ 保護者との連携を図り、より良い生活習慣や規範意識を身に付けさせる。 エ 「道徳」の授業を要として、教育活動全体を通して道徳心を涵養する。
5 働き方改革の推進	ア 校務の精選と役割の明確化を図り、勤務態勢の適正化に努める。